

## 開局の準備へと(その2)

Ver-02より引き続きに成りますが、勇気を出しての第一声は如何でしたか？

今迄で聞いて居た事の全てを覚えた訳では無いでしょうから、最初はしどろもどろ？ だったでしょう。

要は、電波が相手の無線局に届いて居たかの確認ですから、お話(交信)が出来れば電波が飛んで行ってる事に成ります。話の内容なんて、慣れれば初めての人でも、お友達のように話は出来るものです。

当然、第一声は、初めての交信なので、相手の局から 59 なんて番号の様な言葉が送られて来ませんでしたか？ これは、相手の局が貴方の電波の強さや、明瞭度を数字で送って来たのです。明瞭度は、1から5まで、信号の強さは1から9迄、の言い表し方が決まって居ます。最初ですから、同じ事を送り返して置けば良いでしょう。

他にQRAとか、QTHとか最初は聞きなれない言葉ばかりでしたネ。これらは、Q符号と言って、Qを頭文字に、3文字で表す符号で内容には決まりが有ります。コールサインも、単なるアルファベットでは無い言葉が聞こえたでしょう？ J(ジェイ)の事をジュリエットなんて、これも、フォネテック、と言って、聞き取り難いときに使われる言い表し方の一つで、AからZ迄有ります。場合に依っては「ジャパン」なんて言い方が変わりますが・・・

Qコードやフォネテックは、少しづつ使って居るうちに覚えるでしょう。誰かと交信する事を「QSO」と言います。初めて、QSOをする局には、信号強度や明瞭度は必ず送ります。これは、一応マナーと言った事でしょうか、信号強度、明瞭度、を送る事を、「RSレポート」を送ると言います、そして自分が出して居る電波の出所を明らかにするための自分の住所(QTHと言います)自分の名前(QRAと言います)は必ず送ります。後は普通にお話をするだけ、皆さん先輩局(OM局と言います)ですから、判らない事を聞いたりするのも良いでしょう。話の内容に依って相手の局に印象付け、自分のコールサインを覚えて頂く、と言う事も一つで、次に繋がる事に成ります。二度、三度繰り返せば、度胸が付きます。暫くは、CQ, CQの出た局へ声を掛けましょう。声を掛けて行く事を「追っかけ」ともいいます。度胸が付けば、今度は自分で、「CQ, CQ・・・」(CQ, とは各局の意) 声を出して見ましょう。

今までは、VHFの144MHz帯、UHFの430MHz帯のお話で、上の周波数の1200MHz帯も同じ事です。では、次に、今までより、低い周波数の話です。同じVHF帯に50MHz帯が有ります。この周波数帯はHFに近いバンドで、届く距離も伸びて来ます。「コンディション」に依っては、外国との交信も可能な周波数帯です。ここで、「コンディション」と言う言葉が出て来たので、少しだけ説明します。電波は季節によって飛ぶ距離が違って来ます、言い換えれば、温度や気圧や上空の或る条件で電波の飛び方が変わります。

詳しくは、後々に解説をしています。ですので、或る程度、慣れも必要で上級クラス？でも無いでしょうが、・・・

では、無線機についてですが、前にも書きましたが、車に積めるようなモバイル機も有ります。でも無線機も最近では進歩に進歩が、目まぐるしく、HF帯の下から、UHF帯の1200MHzまで、1台の無線機で全ての電波が出せる様な無線機が有ります。固定型の無線機ですが、ひと昔から比べると、小型に成って価格も高く成って??なんて。手が出しにくく成りました。無線機の操作もパソコン並み、中身はコンピューターと言っても過言では無く成りました。早い話がこう言った無線機が1台有れば、どの周波数も、どのモードも全て、運用可能です。50MHzの話も、その下の周波数の話と一緒に成りますが、VHFやUHFに比べると電波の飛ぶ範囲も広く成り、先程のコンディションに依っては、地球を一回りして来ます。他にも条件次第ですが、と言っても、VHFやUHFも先程の気圧や温度、他条件に依っては、とんでもない飛び方をします。

ご存知でしょうが、BSやCSのテレビは、UHFやSHFです。地球の大気圏外の人工衛星を使ってテレビの中継をして居ます。お判りですネ、アマチュア無線も人工衛星を使っての交信も出来るんです。まだ遠く、お月さま迄が、アマチュア無線に協力して呉れて居ます。月面反射通信が、UHF、SHFで行われて居ます。

(その3)に続く・・・